

平成26年度
入学試験問題

国 語

2月2日 午前

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 幸福をツイキユウする。
- (2) 植物は土からヨウブンを取る。
- (3) 東京をケイユして長野へ行く。
- (4) 多くのコンナンを乗りこえる。
- (5) 歴史をチュウジツに再現する。
- (6) 新製品のセンデンをする。
- (7) 草花のヒヨウホンを作る。
- (8) 消息をタツ。
- (9) 良くキク薬。
- (10) 勇気をフルウ。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

私が小学生の頃の同級生に、足の速いY君という子がいました。 1

Y君は毎年、運動会の一〇〇メートル競走で一等になり、賞品のノートや鉛筆を山ほどもらっていました。私も足は速い方でしたが、

このY君にはかなわなくて、運動会のたびに、「いいなあ、すごいなあ」と思っていました。 5

賞品のノートや鉛筆がほしかったわけでも、自分より足の速いY君にジェラシーを感じていたわけでもありません。俊足のY君のことを心から尊敬していたのです。 10

このように競争をおして相手に対する尊敬の念をなくくむことは、とても大事なことだと思のですが、最近の日本では、「子供達に競争させるのはかわいそう」「勝ち負けにこだわるのは良くない」「順位によって差をつけるのは平等主義に反する」といった理由から、運動会で一位、二位、三位の表彰をやらなくなった学校もあるようです。 15

でも、競争は本当にいけないことでしょうか。日本人なら誰でも、オリンピックで日本の選手が優勝すれば大喜びし、サッカーのワールドカップで日本チームが敗退すれば悔しが

るでしょう。そうやって競争を楽しんでいるわけです。それなのに、学校の運動会に関しては「平等主義に反する」という理由で競争をさせないというのは、どこがおかしいと思いませんか？ 20

私は「競争のないところに進歩はない」と考えています。私の言う競争とは、足の引っぱり合いやルール違反のない、フェアな競争のことです。

「切磋琢磨（仲間同士が互いに励まし合い、競い合って向上をはかること）」という言葉があるとおおり、フェアな競争は進歩の原動力です。このことは勉強やスポーツだけでなく、芸術、科学技術、ビジネス、産業、経済についても同じようにあてはまります。 25

そもそも、平等主義がそんなに素晴らしいのなら、何よりも先に偏差値重視の受験競争をなくすべきでしょう。仮に「勉強以外の競争は悪」なのだとしたら、スポーツの試合も、音楽や書道や絵のコンクールも、弁論大会も、すべてその存在意義すらなくなってしまう。 30

それに、学校生活から勉強以外の競争がなくなれば、ほとんどの生徒は自分に **A** を持つきっかけを失ってしまうでしょう。

たとえば、あなたのまわりには、絵がクロウトはだしの子、音感が抜群な子、スポーツ万能な子、大人もかなわないほど字が上手な子など、何かに秀でた友達がいると思います。あなた 35

B がそうかもしれません。

そういう人達は、たとえ勉強ができなくても、体育祭で英雄えいゆうに变身したり、美術の授業でスターになったりすることで、「自分には40

1 が備わっている」という 2 を持つことができます。

そして、そういった 3 を受けることによって自信をつけるのです。

こうして、 4 して人から認められる喜びを味わえるだけでなく、「もうちょっと勉強も頑張がんばってみようかな」と、苦手分野45

を 5 しようとする 6 を高めていくこともできるのです。

他の人と比べて、絵がうまい、音感がいい、スポーツ万能、字が上手……といったことは、どれも一つの才能であり、その人の個性です。個性に優劣ゆうれつはありませんが、一〇人の人にかけてこそさせれば、必ず一位から一〇位までの順位はつきましますし、一〇人の人に絵を描かかせれば、それぞれの作品にはおのずと違いちがが出てきます。その違いが個性というものです。

日本では「子供の個性を大事にすべきだ」としきりに言われますが、そのわりには、個性の違いがはつきり出るようなことを避さける傾向けいこうがあります。けれどその一方で、偏差値や学歴で人に差をつけている。これこそ矛盾むじゅんではありませんか。

こんな状態で「個性を磨みがきなさい」と言われても、たぶんみなさ

んは納得なつぐできないでしょう。日本の大人達は、「個性の尊重とはどういうことか」を真剣しんけんに考えなければいけないと思います。

「個性の尊重」ということで、一つ例をあげましょう。フランスの中学や高校での哲学てつがくの授業では、テーマを与あたえて小論文を書かせるという訓練をします。

テーマは何でもいいのですが、ここで仮に「勇気」ということにしましょう。この「勇気」というテーマについて、一時間くらいかけて、小論文を書かせるのです。道端みちばたで倒れた年寄りを助ける勇気、

電車の中の他人同士の口論を仲裁ちゅうさいする勇気、会社に就職せずに起

業する勇気、密ひそかに恋焦こいこがれている相手に自分の気持ちを告白する

勇気、不治の病と闘たたかう勇気、など、どんな「勇気」を取り上げて

も自由です。取り上げた「勇気」についての自分の考えを論理的に

組み立てて、☆ をつけ論文にまとめるといふ作業が生徒に

課せられます。こうして、各人各様の小論文が生徒の数だけできあがるというわけです。

ここで大事なものは、人の物真似ものまねではない、自分自身の考え方、

I、オリジナリテイのある考え方です。 II、小論文

にまとめあげるには、プラトン※なり、ルソーなり、ボルテールなり、

III スピノザ、カント、ニーチェでもいい、古典を引用して

※ ロジックを整理するというテクニクも同時に評価の対象になります。

(今北純一『自分力を高める』)

※ジェラシー……やきもち。

※プラトン・ルソー・ボルテール・スピノザ・カント・ニーチェ

……いずれも有名な哲学者、思想家。

※ロジック……論理。

問一 ~~~~~線 a s e の「の」について、一つだけ他の四つとはた

らきの違うものがあります。それはどれですか。記号で答えなさい。

問二 ——線①という言葉は、筆者のどのような気持ちから出た

ものですか。本文中から二字の熟語をぬき出して答えなさい。

問三 ——線②の「はぐくむ」に最も意味が近いのはどれですか。

次から選り記号で答えなさい。

- ア、はげます イ、つづける
ウ、そだてる エ、わすれる

問四 ——線③のように筆者は問いかけていますが、筆者自身は

「競争」についてどのように考えていますか。それが最もはつきり表れている箇所を本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問五 、 には同じ読み方をする別の語が入ります。

それぞれ漢字二字で答えなさい。

問六 ——線④「クロウトはだし」とありますが、これとほぼ同

じ意味の語を次から一つ選り記号で答えなさい。
ア、シロウトばなれ イ、シロウトまがい

ウ、シロウトもどき エ、シロウトなかせ

問七 に入る語を次からそれぞれ選り、記号

で答えなさい。

- ア、実感 イ、意欲 ウ、克服
エ、努力 オ、才能 カ、評価

問八 ——— 線⑤について、

(1) 「矛盾」の状態を表していると言える場面を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、優勝すると宣言していたチームが一回戦で負けてしまった。

イ、お金をためたいと言っていた友人がむだづかいをしていた。

ウ、天気予報では晴れだと言っていたが、朝から雨がふっている。

エ、さっきまでケンカをしていた二人が、今は仲良く遊んでいる。

(2) 筆者はどのようなことをさして「矛盾」していると言っているのですか。説明しなさい。

問九 ☆ には、「詩や文章の構成」を示す次の四字熟語が入

ります。その最初と最後の漢字を答えなさい。

承転

問十 I II III に入る語を次からそれぞれ選び、記号

で答えなさい。

ア、もちろん イ、ところが

ウ、あるいは エ、つまり

問十一 次のア～カについて、筆者の考えに合うものは「A」を、

合わないものは「B」を解答らん書き入れなさい。

ア、小学校の運動会で、順位をつけることは望ましくない。

イ、オリンピックやサッカーワールドカップも一つの競争である。

ウ、平等主義は悪いことではないが、競争反対の理由にするのはおかしい。

エ、フランスの小論文の授業は「個性」を考えるよい例と言える。

オ、今の日本では偏差値や学歴の差を個性とせざるを得ない。

カ、ずるをしてでも勝ちたいという姿勢は結果的にその人を向上させる。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

小学校五年生の江藤雄太は学校では周りから、男らしいと思われているが、内面は猫好きで、涙もろい心優しい少年であり、そのことを誰にも気づかれたくないと考えている。

雄太は学校帰りに見知らぬコンビニエンス・ストアを見つけて入る。

その子のことを思い出すと、ため息が出ました。

くるくるした瞳と、やさしい声と、やわらかそうな髪。

（おれ、あんないい子を傷つけて、泣かしちまったんだよな……）

ため息は、何度も出ます。止める気力もありません。

「なあ少年」と、レジの向こうのきらきらのお兄さんが、おつりを渡してくれながら、雄太に話しかけてきました。

「いったいぜんたい、なにを落ちこんでるんだ？ よかったら、どうだ、話さないか？ 悩みごとってというのは、人に話すことで、楽になるっていうぞ」

ふつうなら、雄太はその言葉を無視したかもしれません。ふいと肩をそびやかして、クールな感じで、コンビニを出て行ったかも。

でも、お兄さんの声はあたたかかったです。金色の目は、すべてのものを見通すように、澄んでいて、やさしかったのです。

雄太は、顔を伏せて、ぼそりと、つぶやいていました。

「……同じクラスに、美音って子がいてね。やさしくて、すつごくかわいい子でさ。その子、こないだ、アメリカに行っちゃったんだ」「そうか、その子との別れがさびしいのか。初恋だったりしちゃったとか？」

② 「……うん。まあね。そういうのかもね」

雄太はかすかに笑いました。

雄太が美音と初めて話したのは、今年の、梅雨の頃のことでした。

通学路にある住宅地のごみ捨て場のそばで、雨が降る中、捨てられていた小さな子猫。その子猫を抱いて、かわいそうかわいそうと泣いていたのが、美音でした。

③ 「ごめんね」と、美音はぬれた子猫に謝っていました。抱きしめて、泣いていました。

「……うちはママが、とつてもとつてもひどい猫アレルギーなの。猫の毛があると、息が苦しくなるの。おうちには連れて帰れない。

せめて雨がやむまで、抱いてあげてあげるから。そうしたら、少しはあつたかいよね。……ごめんね。ごめんなさい」

「……おい、ちょっと待て」

雄太が声をかけたのは、子猫が気になったというのもあるのです

が、美音がせきとくしゃみを交互こうごにしている、呼吸が苦しそうだったからでした。

びっくりしたような顔bをしている美音の手から、白い子猫を抱き取って、

「ひよっとして、ママだけじゃなく、おまえも、猫アレルギーなんじゃないのか？」

「……」

「しょうがねえなあ、もう。おれにまかせろ」

そうして、その子猫は、雄太の家の十匹目の猫じっぴめになったのです。

雄太と美音は、その日まで、口をきいたことがありませんでした。

ふたりとも無口なほうだったし、教室で、席はなが離れていたからです。

本当のことを言うと、雄太は、美音のことを、ひそかに、かわいい

いな、と書いていました。だけど、女の子に対して、そんなことを

思う自分が、軟派なんぱな感じがして許せなくて、見えないふり、なんとも思っていないふりをしていたのです。

でもその日から、ふたりは少しずつ、話すようになりました。な

によりも美音が、子猫の話bを聞きたくて、雄太に話しかけてくるよ

うになったからでした。

そんなとき、雄太は人がいない場所に美音を呼んで、続きを

話したりしたのですが、そんなふうに、学校で、ふたり

A

だけの秘密bみたいにして、子猫の話をするのは、

おきの大事な時間になってゆきました。

美音も楽しそうだったし、雄太も、猫好きがばれてしまっている美音の前だったら、いくらでも顔をどろけさせて、子猫のかわいい

しぐさの話ができたのです。

でも、ふたりの仲が良くなるにつれて、雄太の友人たちが、面おもしろ白

半分bに冷やかすようになってきました。

そんなある日のことでした。

放課後に、友だちと教室で話していた雄太のところに、急に美音

が走ってきました。

きゅっと口をむすんで、きれいなメモ帳を、雄太に差し出しました。

みんなの目の前で。雄太を、雄太だけを、まっすぐに見上げて。

それは、C かわいい子猫の写真がついた、赤いメモ帳でした。

そのメモ帳は、美音の大切な宝物だと、雄太は知っていました。

買ったままもったいなくて使えないでいたくらい、美音のお気に入

りだったのです。

(どうして、おれに、こんな大切なものを?)

顔を真っ赤かにして立ちつくす美音を見つめて、雄太はなんとも言え

ませんでした。

友だちみんなが、ふたりを冷やかして、わいわいはしゃぎ始めま

した。雄太が怒ってもやめようとしません。美音はただ雄太を見つめて、メモ帳を差し出しています。

75

⑤ 席をけるように立ち上がった雄太は、とっさに、「いらねえよ」

と、そのメモ帳を手で払いのけてしまいました。

美音の目に、涙が浮かびました。あの雨の日に見た涙のような、悲しい涙でした。

80

美音は床にしゃがみこみ、赤いメモ帳をそっと拾い上げると、教室から出て行きました。⑥ 静かに、何も言わないで、うつむいて出て行きました。

雄太は、体が凍りついたように、それを見ていることしかできませんでした。

85

それきり、雄太は美音と話しづらくなりました。美音も教室で雄太と目が合った際に、なにか言いたそうにしては、泣きそうな顔になってうつむくばかりで。

90

雄太は、美音に謝らなければ、と思っていたのですが……。やがて一学期が終わり、夏休みになりました。長い夏休みが終わって二学期が始まると、美音の席は、がらんと空いていました。

先生が、美音は家の都合で、アメリカに行ったのだ、と、クラス

のみんなに言いました。夏休みのあいだに引越したのだと。

⑦ そうして初めて、雄太は気づいたのでした。

お別れに、記念のために、美音はあのメモ帳を、雄太にプレゼントしたかったのだと。内気だったから、そしてたぶん、お別れがとても悲しかったから、そのことを、美音はあのとき、雄太にとっさに話せなかったのだと。だから、ただ一生懸命に、メモ帳を差し出していたのだと。

100

(村山早紀『コンビニたそがれ堂』)

※軟派……軽々しい態度。

問一 —— 線①「気力」の語の頭に、打ち消しを表す漢字一字を

いれると三字の熟語をつくることができます。次の語のうち、その漢字一字と同じものを頭につけて三字の熟語となるものはどれですか。一つ選んで記号で答えなさい。

ア、完成 イ、公平 ウ、意味 エ、常識

95

問二——線②とありますが、この時の雄太の気持ちとして最も

適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、かすかに笑うことで話をはぐらかそうとしている。

イ、別れは悲しいがお兄さんの声にほっとして笑っている。

ウ、別れがさびしいので笑うことで平静を保とうとしている。

エ、初恋の相手を傷つけた情けない自分を笑っている。

問四——線a「ない」、b「ような」のここでの意味と同じ意

味を持つものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「ない」

ア、失敗するなんて情けない。

イ、そういう食べ方はみっともない。

ウ、思ったほど熱くない。

エ、注文した品物の数が合わない。

b 「ような」

ア、バケツをひっくり返したような雨が降る。

イ、今夜から雪になるような気がする。

ウ、東京のような大都市にあこがれる。

エ、助けがいるようなら呼んでください。

問三——線③とありますが、なぜ美音は謝っていたのですか。

その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、飼っていた猫を雨の中に捨てていかなければならないから。

イ、猫アレルギーの母親のことを思うと連れて帰ることができ

ないから。

ウ、猫アレルギーで苦しい姿を見せてしまっているから。

エ、自分のかわりに飼ってもらえるような友達もいないから。

問五——線④とありますが、なぜ人がいない場所に呼んだので

すか。六十字以内で説明しなさい。

問六

A C に入る語を次からそれぞれ選び、記号

で答えなさい。

ア、こっそり イ、いきなり

ウ、いつか エ、とびきり

問七 ——— 線⑤とありますが、この時の雄太の気持ちとして、ふさわしくないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、怒り イ、恥ずかしさ ウ、とまどい

エ、驚き オ、くやしき

問八 ——— 線⑥とありますが、この時の美音の気持ちを五十字以内で説明しなさい。

問九 ——— 線⑦とありますが、次の文のうち、この時雄太が気づいたこととして適当なものには「A」を、そうでないものには「B」を解答らんらんに書きいれなさい。

ア、自分との別れの記念に、美音が大切にしているとっておきのメモ帳を渡そうとしたのだということ。

イ、自分と別れなければならぬから、美音があの時涙を浮かべて教室を出て行ってしまったのだということ。

ウ、美音は自分との別れがとても悲しかったから、なにも話せずずにただメモ帳をさしだしていたのだということ。

エ、美音はさみしい気持ちのままアメリカに行ってしまった、そのことを今でもずっと後悔こうかいしているのだということ。

問十 次のA～Eのできごとを実際に起きた順に並べた場合、正しいものはどれですか。後から選び、記号で答えなさい。

A 美音がくれようとしたメモ帳を雄太が払いのけてしまった。

B 雄太がコンビニでレジのお兄さんと話をした。

C 美音がぬれた子猫を抱きしめて泣いていた。

D 美音が家の都合でアメリカに引越してしまった。

E 雄太と美音がふたりだけで子猫の話をした。

ア、 B→C→E→A→D

イ、 C→E→A→D→B

ウ、 B→C→A→D→E

エ、 C→B→E→A→D

エ、 C→B→E→A→D

エ、 C→B→E→A→D